

實に遺憾に候。

第三は路面の甚だ低位なることに候、しかも其の低きこと實に著しく、田面の水に比較して、わづかに之を超ゆる位のものに候。本縣下の道路を通觀するに、概ね藥研形を呈して、路肩の堆く盛れたるものが多い。然れば現状かくの如くである故に、安りに田面の水の溢る、様なことはなからうが、路肩の高きは、排水に不便の關係もあり、特に心すべき必要可有之と存候。

第四は橋梁の多數なることに候。本縣は河川の數頗る多く其の縦横に流る、こと恰も蜘蛛の巢に異ならず、之に架設せらる、橋梁も亦實に夥しいものに候、之が維持管理の困難は寔に推察に餘りある次第に候、殊に本縣の如き水害の著しき地方に於て、多數の橋梁を維持することの到底堪え得る所にあらざるは云ふ迄も無いことである、隨つて目下の橋梁維持の状態を察するに、各地方共殆んど持て餘しの實狀に有之、其の構造の如きも甚だ粗雑なものがあり、自動車などでは全く命がけの様な氣分致し候

第五に縣財政と道路費の支出に關することに就て

多額を支出するのみを以て、誇りとすべからざるは勿論なれども此の精神の普及せらるゝに於ては僅少の修繕費の不足するが如きは、殆んど意とするに足らざるべく、本縣現下の状態は、此の點に於ても亦特に他地方に勝れりとも認められざるを、遺憾とするものに御座候。

之を要するに本縣民は道路に對しては、相當の點まで熱心に御座候、されど未だ道路に對する眞正の理解あつてのものとは認められず候、併かし乍ら全縣一致、黨派を超越して本問題に當らんとする態度は推稱に値するものと存候、幸に縣民諸氏にして、永久に此の態度を持せらるゝに於ては、將來道路の改善に見るべきものあるに至るべきを信じて疑はざる次第に候。又道路の認定に就ては、其の目的、漫りに之が普及を計ることのみを以て、本旨とすべきものにあらずして、其の實質の改善をも念とせざるべからざるは勿論、また法規の關係は云はずもがな、財政の都合等も充分に之を考察に置くの必要可有之、要するに今回の實査線の如きに對しても亦涙を揮つて馬稜を斬るの止むを得ざるものにあらざるを

申述候。本縣の歲計は最近概ね六百萬圓内外にして土木費は總體で其の三萬位を占め、道路費の豫算も相當である。而して縣民の資力も全國の中位以上に位するので、公課負擔の程度も、現下に於ては先づ適當と被存候。たゞ災害土木費の爲に起したる、縣債の現在高が未だ多額に上り居り、之が償還は財政上多少の痛苦と認めざるを得ず候。隨つて之が財政上の影響を受けたるものによ、其の道路費の如きも、新築改築に關する工事は勿論、普通修繕の費用に對してさへも尙充分に之を支出し得なかつた傾き有之候。然れども財政は民力を對象としての問題なるが故に財政上の問題は、民力を充實せしむるに依つて、自ら解決せらるべく、之を培ふものは、一に道路の改善にありと云ふも過言にあらずと存候。然れば適當の計畫の下に於て行はるゝ道路の改善は、多少の重課を忍びても尙努めて之に力を注ぐべきものにして、寸時も躊躇すべからざる問題なることを、縣民の自覺に打込み度と存候。惟ふに經費の不足は、縣民の道路愛護の精神に依つて或程度まで、之を補ふことを得べきものにして、當に費用の

遺憾とするものに候勿々 敬白（西村生）

## 新潟より

第一信 上野驛出發の際は雨なりしも、朝七時長岡驛着の際は、霽れて幸先よきを喜び候、問題の路線認定實査も超然主義の生等には、あまり苦痛とも思はず、目と耳とを忙がしく働らかせて駆けまはり第一夜を港の町寺泊に憩ひ候。裏日本なる名の爲に、陰慘の豫感を抱きつゝ、來り候も、五月晴れの此の頃却つて東京よりも心地よく覺え候。一葦を隔てて見える筈の懐れの佐渡も霧のため見え、涯なく續く日本海も靜かに眠るが如く唯小さき波のうねりのみ力なく防波堤を敲くのみ、靜寂と申すべきも、唯、修學旅行の小學生と宿り合せ雀の囀るが如き騒々しさに、想も纏らず、詳細は後便に譲り候 頓首

第二信 忙がはしく飛びまはり居り候ため意外の御無音平に御容赦願上げ候。到る處地元人士の昇格に對する熱心なる活動振りは、地方道路改良の自覺を計るパロメーターと見られ意を強ういたし候も唯所謂他人の褌にて相撲とりたがる連中の蔭見せしは

唯一の遺憾事と存じ候。財力の豊富なる新潟縣にては、隨所に道路改良工事を施行しつゝあり、國道府縣道等も路幅充分なりと言うを得ざるも手入れ届き交通狀況亦悪からず、路政のため縣當局の勞を多とすべく茲に提燈持ちいたし候呵々。

西蒲原郡の岩室は地藏堂町と共に、紅裾の養成地として有名なる由、實に多からぬ道竝の家々に長袖白面の女數多ゾロ／＼いたし居り奇觀と申すべく、此の點に於ても府縣道の起終點たるべき樞要の地の資格充分なりとは地元の人言に有之、すさまじきものかなと面喰ひ申候。豈夫積荷として搬出するわけにもなるまじく、ざりとて、お輕の轍を履みて駕籠で行くわけにも參るまじ、聖代の有難さ自動車、俾によりて將た汽車や汽船に乗せられて、任地に向ふ事を得るは有難きことに候はずや呵々。

國鐵村上線終點岩船郡村上町の西二十町に松山溫泉あり、數丁にして日本海の渺漂たるを見るべく、礫地の枝面白き松林中に在り景勝の地と申すべく、坦々たる道路に自動車の便ありて、福島縣の東山溫泉と並び稱せらるゝ由、泉質は單純泉なるも、風致よ

唯寸暇を利用して、此の世の地獄と言はれし佐渡鑛山を見學いたし候、規模壯大と言うに非ざるも日々五六千人の坑夫が作業いたし居り盛なものに候、絆纏様の上着に烏打帽を冠りて、打ち與じつゝ坑内を見る事を得候も、維新前まで採礦せし舊坑は、纒かに二尺四方くらゐのものに有之、手に槌とタガネとを持ち足に嘆きを容るべき箆をくゝり附けて四つ這ひにて採礦せしものゝ由、エレベーター、トロリーカー等によりて安々と昇降出来る現在と引較べて、此の世の地獄と嘆きしも無理からぬ事と感じ候。

佐渡に、金と並び稱せらるゝは烏賊に御座候、乳白色の潑瀾たるもの、柔らかき舌觸はとて東京にては味はひ得ぬ珍珠に有之候、夜烏賊釣船の漁り火の點々たる、又紺碧の海、白砂に打つ浪、文人墨客にあらざるとも詩趣自ら湧くを覺え候、白塵舞ふ東京に眼まぐるしき朝夕を送るのみが能事には無之チト佐渡へでもクリーニングのためお出かけ遊ばさずや東道の役引受け申候 呵々。

佐渡島にて……(谷口生)

るしきため浴客少なからず、設備亦之に應じてよろしく、浴塵を洗うに一夕を過すは萬更でも無之候元來此の温泉は石油礦を求めて穿井せしに噴出したるものゝ由、まこと槽を立てたる中に、丈餘の熱湯の柱となりて噴出せる有様珍らしく候、石油を得んとして温泉を得これによりて、石油より數段の多き富を握り得たるわけにて、これこそ眞の掘出しものならむと思ひ候、戲言御宥し希上候先は右草々

第三信 來いとゆたとして行かりよかと歌はれし佐渡へ新潟港より四時間にて易々と行き申し候、古蹟に、傳説に交通不便の一小島と思ひ居り候に、所謂佐渡の國中なる中央平地帯を貫く二本の府縣道及周廻府縣道とは島内交通幹線として利用衆く自動車、馬車、人車目まぐるしく走せ交ひ通り候、島民は既に、國有鐵道敷設運動をさへ起せし由、以て推して知るべく候、順徳院の配流せられ給ひし跡、立正大師日蓮の古蹟さては優しき阿新丸の隠れ松など、心ある人のためには、夫れ／＼に得がたき探查の種となるべく候も、踏査の都合上、ゆる／＼と總てを温ぬる事も得ざりしは遺憾にて候ひき。

道路難 市の道路の善悪もさることながら、接續町村の方は更に一層甚しいものである。交通の頻繁となるに従つて路面の壞れるのは、何んとも話しやうもない状態である。殊に五月雨畑の初夏の頃尙ほそれが甚しいのである。行儀も點々散在する程度ならば拾ひあきも出来るが路側一帯泥濘の有様では、通行と言ふよりも徒渉と言ふ方が適當である。其處を車馬自動車などが絡繰と行交ふのであるから、其の側を逢ふ行人の氣苦勞は並大抵ではない。泥水濺洒たるあたりを自動車の水を切つて過ぎる様はあたかも泳いで見えるのである。それで路の兩端も泥濘汚形になつてうづたかくあるのだから此邊を逃げ惑ふ行人は實に慘たるものである。市内の住宅難を避けて、郊外に移れる人も雨の日の悪路には頗る惱まされる。一難去つて一難來る。之れは眞に郊外生活の活畫圖、人生行路難いや道路難の實物である。又市に近き某方面に於ても、道路の取擧げ工事が殆んど半歳に亘つてまだ完成にならない。舊建築物は取毀たれ其筋の計畫通り引下つて新店舗は建て並ぶのである。化粧煉瓦の建物、鐵筋コンクリートの建物、道路改正後の街の様子は、勿論面目を一新されたには相違ない。けれども舊道の側溝と取擧げられた側溝との間には、土盛工事用の軌道が布かれ蒸氣ローラーが所々に置かれてはあがるが、土砂用トロの運轉するが如く、せざるが如く毎日通ふるものにも一向工事の活況が目に入らない。最も夜中の活動があるのなら、之れは吾人の知れる限りではないが、斯くしては何れの日に完成するのであるか、やうな有様であるから、交通量は依然として舊路幅の負擔で一向新路幅に展開される景色はない。新設の店頭商品の陳列は美々しいやうであるが、行人とは風馬牛其の眼に觸るべく餘りに隔りがある。それで此に引移るには、家主側の爲に大分權利金とを下さしめられたと言ふ説である。然れども營業は不振である。これは道路難の病苦が、市外の側にある事實と思はれるが、然うした例は市内にも大分あらうと思はれるから、行路難の地口を手短かに辯じあげて當路の一考を類はす次第である。(中野村にて島の蟬發生)